

国語プリントNo. ( )

年 組 番 名前

配布日 月 日 曜

## 東下り 傍線注釈

口語訳をもとに傍線注釈をしなさい。(単語の切れ目にスペースを入れている部分もある。)

(1) 昔、男ありけり。

(2) その男、身をえうなきものに思ひなして、

「京にはあらじ。

(3) 東の方に住むべき国求めに。」とて行きけり。

(4) もとより友とする人、一人二人して行きけり。

(5) 道知れる人もなくて、惑ひ行きけり。

(6) 三河の国八橋といふ所に至りぬ。

(7) そこを八橋といひけるは、水ゆく川の蜘蛛手なれば、

橋を八つ渡せるによりてなむ、八橋といひける。

(8) その沢のほとりの木の陰に下りゐて、乾飯食ひけり。

(9) その沢にかきつばたいとおもしろく咲きたり。

(10) それを見て、ある人のいはく、「かきつばた、といふ

五文字を句の上に据ゑて、旅の心を詠め。」

と言ひければ、詠める。

(11) 唐衣きつつなれにしつましあれば

はるばるきぬる旅をしぞ思ふ

(12) と詠めりければ、みな人、乾飯の上に涙落として

ほとびにけり。

けり  
けり けり けり  
けり ける けれ

この語は  
どのように  
訳されているか？



その単語自体が  
訳されて  
いない語は？

